

★姉妹都市キティタス郡でのアドベンチャーツアー

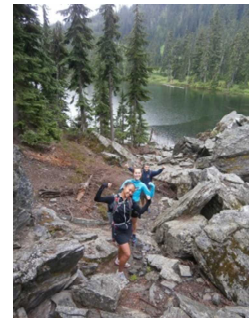
現地の方と交流し、大自然と触れ合う1週間の旅を味わいました。姉妹都市のキティタス郡はエレンズバーグ市を中心にその他の市を含む広大なエリアで、広大な山林に囲まれた平野部に、市街地があります。市街地は三田市ほど建物があるわけではなく、昔の西部劇を思い出すようなレンガ造りの建物がたくさん残っており、高い建物はありません。市街地のはずれには、セントラルワシントン大学があり、広大な敷地にたくさんの建物が建っており、三田市の関西学院大学のようなイメージです。市街地から車で10分も走ると、牛や馬の牧場や牧草を作っている農家ばかりとなり、とてものどかな風景となります。



今回はホームステイをしながら、山林での2泊3日のキャンプも経験しました。その様子をレポートします。市街地から1時間くらい車で走り、きれいな湖や川を見ながらキャンプ場に到着しました。出迎えてくれたのは、かわいいリスでした。たくさんのリスが走り回っており、子どもたちも大喜びです。ナッツを手のひらにのせて待っていると、手のひらにリスが乗ってきます。日本では、なかなか味わえないことを子どもたちは経験しました。

キャンプでは、ハイキング、フライフィッシング、キャンプファイアーなどを行いました。それぞれについて、経験豊富な方々が交代しながら、お越しいただきガイドをしてくださいました。

ハイキングでは、獣道を歩き、途中の草花について説明をしてもらいました。ブルーベリーの果実を食べ、きれいな川の岩の上で休憩をしながらのハイキングでした。途中にはキツツキがつついた跡や、鹿の足跡が見られました。



フライフィッシングは、まず疑似餌の作成方法を説明いただき、竿さばきの方法を練習し、まずは近くの川で実践しました。三田市からのメンバーが1匹釣りました。その他は釣れず、次の日、クーパー湖で再チャレンジしました。最高の景色でしたが、魚を釣ることはできませんでした。早朝に行くとマスが釣れるそうです。

夜間には、ギターを持ち、歌ってくれる夫婦にお越しいただき、歌と演奏で楽しみました。三田市からは2人の子どもがリコーダーを披露し、ギターとのコラボ演奏も実現しました。周りで偶然キャンプをしていた子どもたちも集まって、みんなで楽しく夜を過ごしました。キャンプ場の夜空はとっても美しく、星が輝き、鹿の姿も確認できました。



キャンプの後は、砂金採りに出かけました。普通の砂に見えるスコップ1杯の砂から輝く金の欠片が採取でき、子どもたちは大喜びでした。その後、砂を採取する洞窟の中も見学させていただき、日本ではなかなか体験できないことができました。

残りの時間はホストファミリーと過ごしたり、市内観光をしたり、セントラルワシントン大学ツアーに参加したりと、キティタス郡の良さを凝縮したようなツアーでした。

★防災講演について

7月24日(木)は別行動で、午前中はキティタス郡庁舎で午後からはエレンズバーグ市役所で防災講演を実施しました。コミッショナー、市・郡の関係者、防災関係者、消防や警察の方など合計約70人が聴きにきてくれました。テーマは「東日本大震災の現状と防災について」で約30分講演し、その後約1時間の質疑がありました。

講演内容は、はじめに東日本大震災の発災直後の私が目にした被災地の状況や避難所の様子を紹介し、続いて3年後の現状や復旧状況、最後に防災提案ということで、今後発生するかもしれない大災害に備えて、住民一人一人の防災意識の向上が必要ということを話しました。

傍聴にお越しいただいた方々は、真剣に私の話に聴き入り、それぞれが、これからのキティタス郡の防災について考えるよい時間になったと思います。

